

郵便  
報知新聞  
第百七十号

武州足立郡下加茂官村の農白石嘉吉  
の妻の名をさのと呼六年未連添て  
中睦敷暮せ一がりの姪を丸を崎村  
金子文次郎の娘を時折泊り仕度  
手傳多しぞあしつう夫嘉吉と誤  
つる中と多しつさきの妬さ限り  
或日ちる追りて語り青いぬひら  
託入り以後思ひ前こに推戻り以道計  
へ思ひさく色ぬ物とる又も目先さく  
さきの益々念一が一日夫婦諸俱よ  
熟柿を食し機嫌よく語り戯也か  
さきの平生の妬心怒発し柿剥小刀をま  
の腰骨と刺さる鮮血出て止らぬ早余  
日と經て外病よく死しりさきの  
徳後五年は慶せしと



大極堂  
彫工 銀

